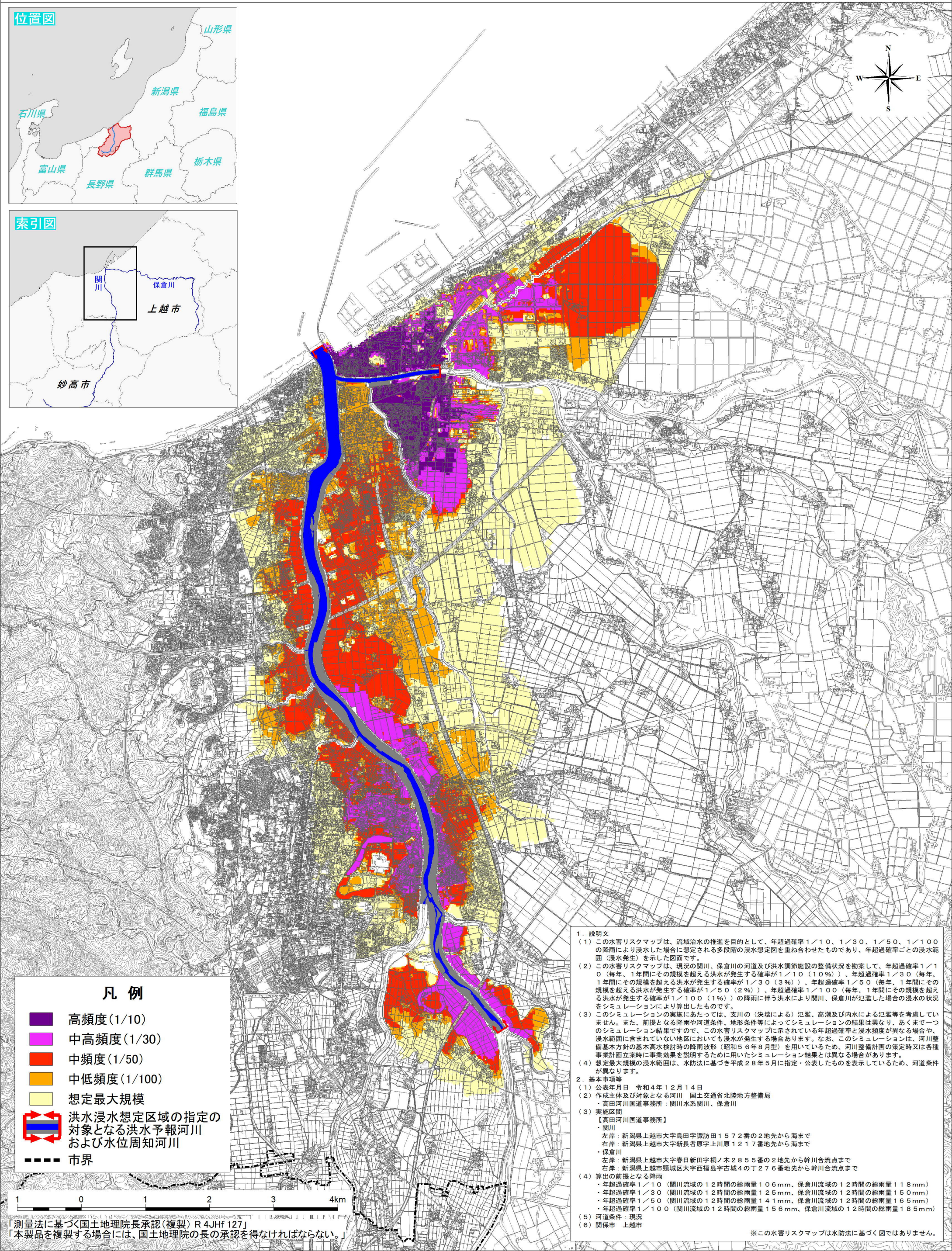
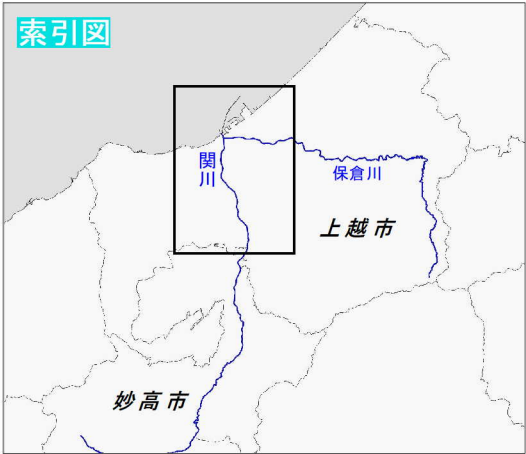
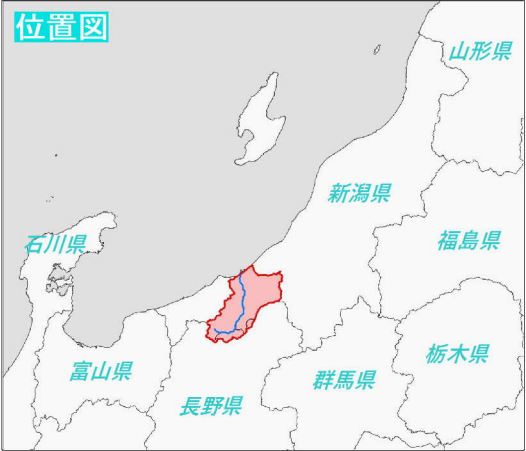


関川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ

【現況河道】

暫定版

浸水が想定される範囲を表示



凡 例

- 高頻度(1/10)
- 中高頻度(1/30)
- 中頻度(1/50)
- 中低頻度(1/100)
- 想定最大規模
- 洪水浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川および水位周知河川
- 市界

1. 説明文
(1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。
(2) この水害リスクマップは、現況の関川、保倉川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10（10％））、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30（3％））、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50（2％））、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1％））の降雨に伴う洪水により関川、保倉川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
(3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和56年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
(4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年5月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。
2. 基本事項等
(1) 公表年月日 令和4年12月14日
(2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省北陸地方整備局
・高田河川国道事務所：関川水系関川、保倉川
(3) 実施区間
【高田河川国道事務所】
・関川
左岸：新潟県上越市大字島田字諏訪田1572番の2地先から海まで
右岸：新潟県上越市大字新長者原字上川原1217番地先から海まで
・保倉川
左岸：新潟県上越市大字春日新田字桐ノ木2855番の2地先から幹川合流点まで
右岸：新潟県上越市東区大字西福島字古城4の丁276番地先から幹川合流点まで
(4) 算出の前提となる降雨
・年超過確率1/10（関川流域の12時間の総雨量106mm、保倉川流域の12時間の総雨量118mm）
・年超過確率1/30（関川流域の12時間の総雨量125mm、保倉川流域の12時間の総雨量150mm）
・年超過確率1/50（関川流域の12時間の総雨量141mm、保倉川流域の12時間の総雨量165mm）
・年超過確率1/100（関川流域の12時間の総雨量156mm、保倉川流域の12時間の総雨量185mm）
(5) 河道条件：現況
(6) 関係市 上越市
※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

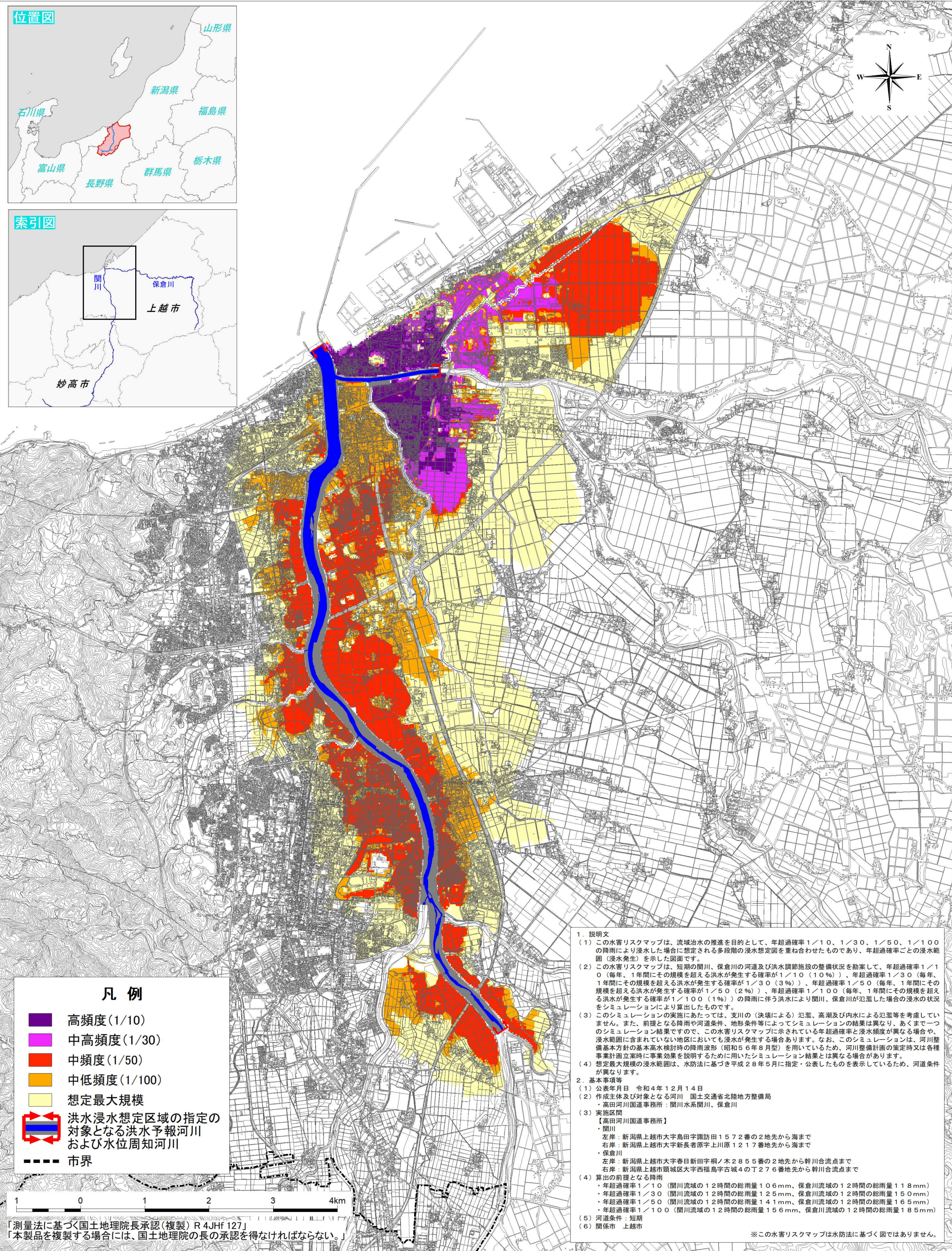
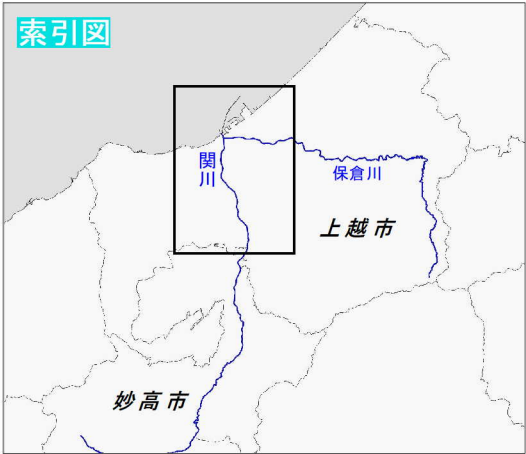
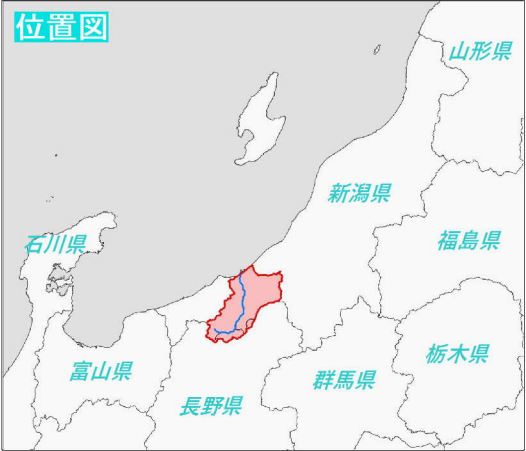
「測量法に基づく国土地理院長承認（複製）R4JHf127」
「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」

関川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ

【短期河道】

暫定版

浸水が想定される範囲を表示



凡 例

- 高頻度(1/10)
- 中高頻度(1/30)
- 中頻度(1/50)
- 中低頻度(1/100)
- 想定最大規模
- 洪水浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川
および水位周知河川
- 市界

1. 説明文
(1) この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲(浸水発生)を示した図面です。
(2) この水害リスクマップは、短期の関川、保倉川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10(10%))、年超過確率1/30(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30(3%))、年超過確率1/50(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50(2%))、年超過確率1/100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%))の降雨に伴う洪水により関川、保倉川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
(3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形(昭和56年8月型)を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
(4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年5月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。
2. 基本事項等
(1) 公表年月日 令和4年12月14日
(2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省北陸地方整備局
・高田河川国道事務所: 関川水系関川、保倉川
(3) 実施区間
【高田河川国道事務所】
・関川
左岸: 新潟県上越市大字島田字諏訪田1572番の2地先から海まで
右岸: 新潟県上越市大字新長者原字上川原1217番地先から海まで
・保倉川
左岸: 新潟県上越市大字春日新田字桐ノ木2855番の2地先から幹川合流点まで
右岸: 新潟県上越市東区大字西福島字古城4の丁276番地先から幹川合流点まで
(4) 算出の前提となる降雨
・年超過確率1/10(関川流域の12時間の総雨量106mm、保倉川流域の12時間の総雨量118mm)
・年超過確率1/30(関川流域の12時間の総雨量125mm、保倉川流域の12時間の総雨量150mm)
・年超過確率1/50(関川流域の12時間の総雨量141mm、保倉川流域の12時間の総雨量165mm)
・年超過確率1/100(関川流域の12時間の総雨量156mm、保倉川流域の12時間の総雨量185mm)
(5) 河道条件: 短期
(6) 関係市 上越市

※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。

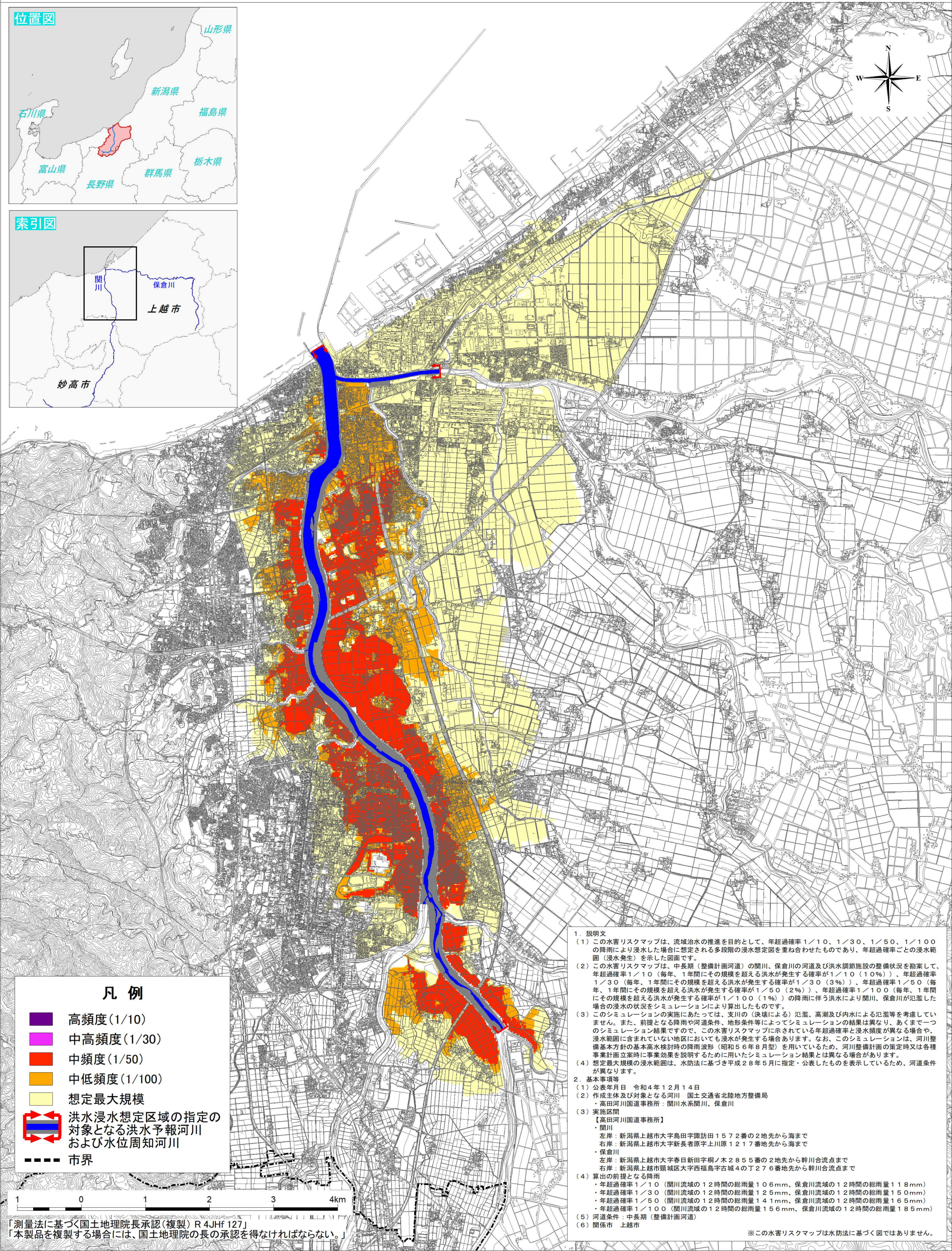
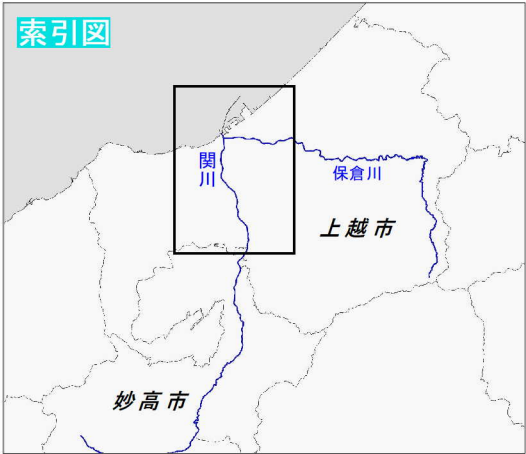
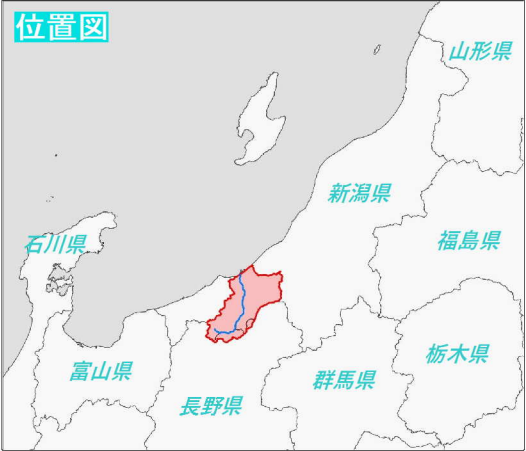
「測量法に基づく国土地理院長承認(複製) R 4JHf 127」
「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」

関川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ

【中長期河道】

暫定版

浸水が想定される範囲を表示



凡 例

- 高頻度(1/10)
- 中高頻度(1/30)
- 中頻度(1/50)
- 中低頻度(1/100)
- 想定最大規模
- 洪水浸水想定区域の指定の対象となる洪水予報河川および水位周知河川
- 市界

1. 説明文
- この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。
 - この水害リスクマップは、中長期（整備計画河道）の関川、保倉川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10（10%））、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30（3%））、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50（2%））、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水により関川、保倉川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
 - このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水頻度が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（昭和56年8月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
 - 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成28年5月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。
2. 基本事項等
- 公表年月日 令和4年12月14日
 - 作成主体及び対象となる河川 国土交通省北陸地方整備局
・高田河川国道事務所：関川水系関川、保倉川
 - 実施区間
【高田河川国道事務所】
・関川
左岸：新潟県上越市大字島田字諏訪田1572番の2地先から海まで
右岸：新潟県上越市大字新長者原字上川原1217番地先から海まで
・保倉川
左岸：新潟県上越市大字春日新田字桐ノ木2855番の2地先から幹川合流点まで
右岸：新潟県上越市頸城区大字西福島字古城4の丁276番地先から幹川合流点まで
 - 算出の前提となる降雨
・年超過確率1/10（関川流域の12時間の総雨量106mm、保倉川流域の12時間の総雨量118mm）
・年超過確率1/30（関川流域の12時間の総雨量125mm、保倉川流域の12時間の総雨量150mm）
・年超過確率1/50（関川流域の12時間の総雨量141mm、保倉川流域の12時間の総雨量165mm）
・年超過確率1/100（関川流域の12時間の総雨量156mm、保倉川流域の12時間の総雨量185mm）
 - 河道条件：中長期（整備計画河道）
 - 関係市 上越市
- ※この水害リスクマップは水防法に基づく図ではありません。